

「モダンテクニックの応用

オリジナルな模様を使ったコラージュ技法について」

姫路大学 教育学部 こども未来学科

井上龍彦



1. はじめに

みなさん、こんにちは。姫路大学の井上と申します。よろしくお願いいたします。

姫路大学は兵庫県姫路市南東部に位置し、看護学部、教育学部（通信教育課程も併設）の2学部があります。私は教育学部こども未来学科で小学校教諭、幼稚園教諭、保育士養成の図工、造形関係の科目を担当しております。美術、造形表現の基礎的なことを講義と材料や素材に触れながら学生たちに教えております。

2. オリジナルな模様を使ったコラージュ技法について

2008年からモダンテクニック技法を授業で行っている中で、学生は幼児期や小学校で行ったことを思い出しながら、技法の再確認をし、表現を楽しんでおります。3年ほど行ったと

きに、以前からの技法で出来る作品がマンネリ化しているように感じ、何か学生を刺激するおもしろい表現方法はないかと考えておりました。部屋にある書籍を見ていた時、以前に展覧会で購入した図録の表紙絵が目にとまりました。2004年にエリック・カールの絵本展があり、その時に購入したもの※



でした。エリック・カールと言えば、学生もよく知っている「はらぺこあおむし」の作者ですが、この図録にはコラージュの作り方、元となる色付きティッシュペーパーの作り方が出ており、これを真似ると面白い表現ができるのではないかと思い、すぐに身近にあるコピー用紙と水彩絵の具で実践してみました。何かを表現するために何色でとか考えますが、今回は何も考えず適当に色を選び、コピー用紙に色を付け、更に重ねたり、筆の跡を残したり、かすれさせたり、あるいはにじませたりなどいろいろと行い、数枚の自分仕様のオリジナルな模様を作りました。

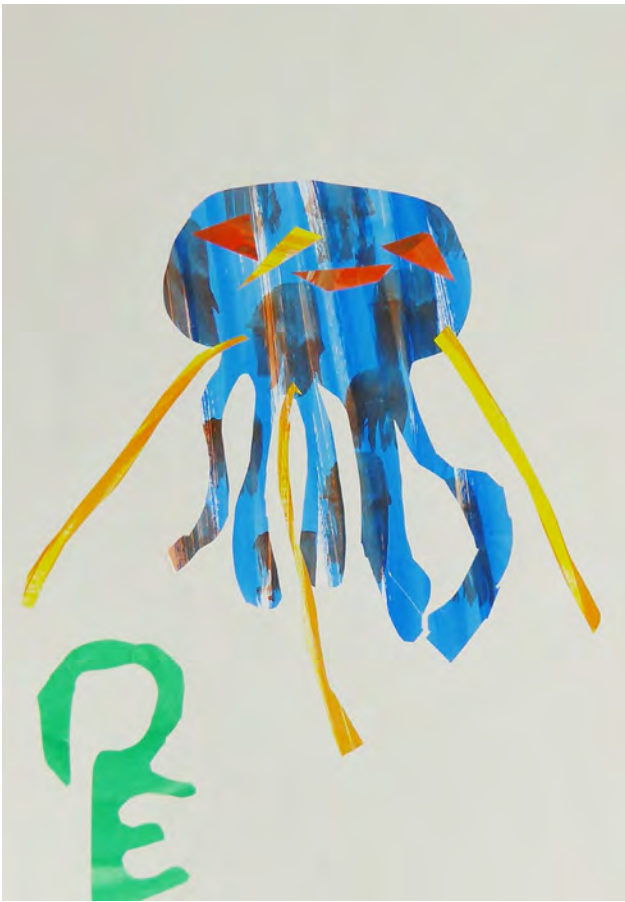


コピー用紙に水彩絵の具を使ってオリジナルな模様を表現。



それを眺めながら何にするかを考えておりましたが、その色、模様からイメージがわいてきて、ハサミ

で切り、新しい用紙に置き、配置を考えました。



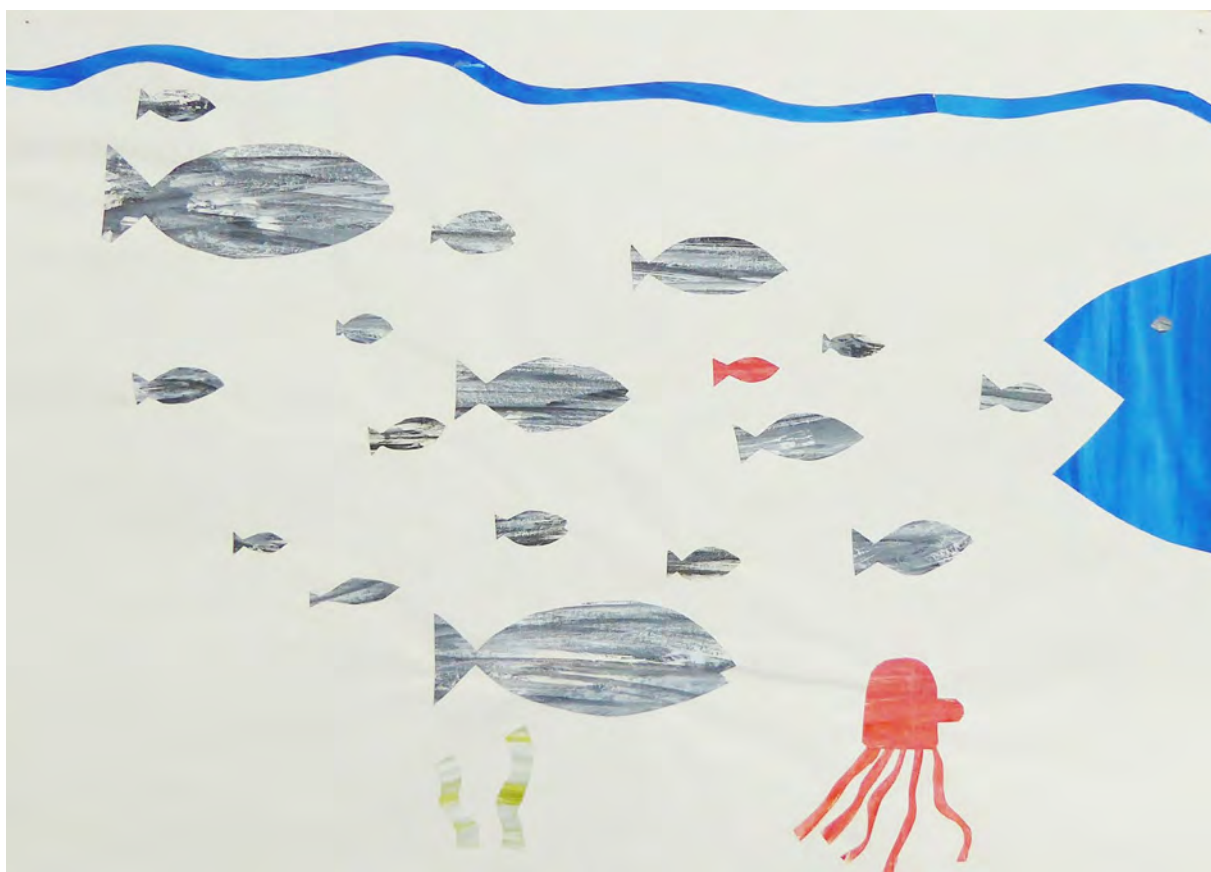
適当に切った形が何かに見えたり、あるいは切り取った残りの形が何かに見えたりとおもしろくなり夢中で取り組んでおりました。できたものが良いかどうかは別にして、創造性を育む教材として、また、

固定観念から離れたところから偶然見つかるおもしろさなど体験できるのではないかと感じました。

その後、2011年からモダンテクニック技法を行った学生に、別課題として体験させてみることにしました。当初は、何の模様というか、どうしたらいいか悩んでいた学生が多かったが、ラフに大胆に、適当という言い方はよくないけれども、そのようなニュアンスの事を伝えると、少しずつやり始める学生が出て来て、数枚の用紙を作り始めました。その後は各自が作った模様を見ながら創造力を働かせ、ハサミで切ったり、指でちぎったりしながら作品を完成させました。テキストの参考事例のようなものではなく、個々の学生がオリジナルな模様から創造し、自分のイメージを楽しみながら作品が出来あがりました。中には筆の方向、かすれ、あるいはそれらを組み合わせて、積極的に工夫している状況も見られ、普段の取り組みとは異なる状況が現れている学生もおりました。







授業後に、この課題について感じたことを聞くと、「当初は何をしたらよいかわからなかったが、いざ作業（模様作り）を始めてしまうと出来上がった模様からアイデアが浮かんできて、それをコラージュ技法で楽しめた。かすれた模様やにじみ、切り方など、今までの折り紙や新聞紙とは異なり、想像の幅が広がった。」というようなことを聞きました。また、本学には通信教育課程もあり、そこでの学生にもスクーリング授業内でも行いましたが、ここでは学生の年齢層が通学生より高いので表現される幅も広く、具象的な表現だけではなく、抽象的な作品が出来上がってきました。

3. 最後に

今回、エリック・カールの技法を参考に同じ素材、材料ではなく、すぐ手に入るコピー用紙と普通の水彩絵の具と筆で行いましたが、私が想定していた学生に刺激を与える課題の一つになったのではないかと思います。更にここから柄付きスポンジやローラーなどで色付けとかいろいろな用具を使用して、加工の仕方を工夫するなど、いろいろと試行錯誤をするような教材研究を学生にチャレンジしてもらっております。また、今までイベント（大学祭、商業施設でのイベント等）で幼児、小学生向けの簡単な

おもちゃ作りを行っていますが、この技法を使った活動についてもゼミ学生とどのような形が幼児、児童にとって興味を持ってもらえるかを検討しております。今回のように自分で模様を作り、それを切り貼りして構成、というように制作者としての経験、工夫、それとその時に感じた感動が、幼児、児童に指導する立場に立った時に大いに役立つものだとして学生たちに伝えております。

デジタル技術が生活や学校の授業に活かされる時代ですが、モノづくり、表現の原点である素材やモノを体感し、五感を使って自分に取り込み、自分の言語（表現）に置き換え、表す方法をアナログ的なものとデジタルだからできるものを上手く何気にといいか、無意識に扱えるようになりたいと思っています。

※「エリック・カール絵本の世界」ブックグローブ社 2004年4月